

授業のあり方や成績の向上についての考察－ 1

－学生の授業や試験への取り組みについて－

吉村浩美・光野裕美子

(西九州大学短期大学部 生活福祉学科)

(平成22年 2 月 9 日受理)

A Study on the Improvement of Class Examination Results

Part I : With approach from student's attitude toward the class and the examination.

Hiromi YOSHIMURA, Yumiko MITSUNO

(*Department of Life and Welfare, Nishikyushu University Junior College*)

(Accepted February 9, 2010)

Abstract

It is necessary to improve the class and the results of the examination for the better implementation of the class to deepen the students' understanding. Therefore, to examine these phenomena, the implementation of the questionnaire has been done about awareness raising for class and student's action toward examination. The results from these questionnaires show that the implementation of basic education influenced effectively on raising the mark of examination.

Key words : Improvement 改善
The examination 試験
Basic education 基礎教育

I はじめに

介護の現場での実践や地域での教育の現場から転職し、初めて短期大学の授業を行った時、学生達が授業に臨む態度に驚いた。出席を取った直後に寝る態勢に入る学生、明らかに何か他のことをしている学生、トイレに立つ学生、何人かは真剣に聞いているが現場での教育や社会人とかかわりがほとんどだった私達にとっては衝撃的であった。ここからどのようにして授業を真剣に聞いてもらえるようにするのか、学生は本当に学びたいと思って授業に出ているのか探る必要があると感じた。

学生の授業への取り組みについてのアンケート、また、試験への取り組みと阻害因子、促進因子についてのアンケートをとり、試験の成績と就職模試（一般教養）の結果について分析したので報告する。

II 研究目的

学生が授業にどう取り組んでいるか、どういう授業を望んでいるか、科目最終試験の成績に何が影響しているのか等分析し学生の授業態度の改善、魅力ある授業、効果のある授業方法を導き出し、学生の指導や授業の改善に役立てたい。

III 研究方法

アンケート調査

1) アンケート①「授業についての意識調査」

対象：佐賀短期大学 生活福祉学科

平成17年度1年生58人

(平成17年10月3日実施、回答率96%)

表1 アンケート①の内容

アンケート① (自由記述)

1. 何の職につきたいですか
2. 授業は好きですか
3. その理由は何ですか
4. 授業に対して自分で努力していることはなんですか
5. どういう授業を望みますか

2) アンケート②

「教科別の試験への取り組み予定時間と学習阻害因子・促進因子の調査」

対象：佐賀短期大学 生活福祉学科

平成19年度1年生38人2年生46人計84人

(平成19年8月～9月実施、回答率86.9%)

3) アンケート③

「教科別の試験への取り組み結果と成績についての調査」

対象：佐賀短期大学 生活福祉学科

平成19年度1年生38人2年生46人計84人

(平成19年10月実施、回答率86.9%)

表2 アンケート②の内容

アンケート②

1. 教科別の学習予定時間について
2. 教科別の学習阻害因子について
 - 1) 授業中真剣でなかった
 - 2) 勉強をやる気がしない
 - 3) 授業の理解ができない
 - 4) アルバイトで時間がない
 - 5) 家庭的な事情
 - 6) その他
3. 教科別の学習促進因子について
 - 1) 授業者に質問する
 - 2) よく理解している友人に援助してもらう
 - 3) 目標点数
 - 4) その他

表3 アンケート③の内容

アンケート③

1. 教科別の実際の学習時間
2. 教科別の実際の点数

IV 結果・考察

1) アンケート①「授業についての意識調査」結果

表4 何の職につきたいですか (複数回答)

職 名	n=58	(%)
1. 介護福祉士	39	(67)
2. 福祉以外の職	7	(12)
3. 養護教諭 (当時は養護コース有)	6	(10)
社会福祉士	5	(8)
福祉関係 (漠然と)	4	(6)
決めていない	2	(3)
住環境福祉コーディネーター	1	(1)

表4を見ると学科の主な目的である介護福祉士の職に就きたいと答えたのは67%であり、介護福祉士、養護教諭、社会福祉士、福祉関係など学科の授業に関係する職に就きたいと答えたのは82% (実人数49人) であった。まだ進路を迷っており、介護福祉士と養護教諭等、複数回答した学生もいたが私達の印象より多い数字であった。短期大学であり、将来の職業に必要な資格の取得という目的意識を持って入学してきている姿がうかがえた。福祉以外の職業にはフリーター、バンド、陸上選手、洋服屋の店員等があり、2割近くの学生が授業とは関係のない職業を希望しながらも短大に入学し、興味のない授業を受けていることになり、授業に身が入らない原因が見える。

表5 授業は好きですか

授業が好きか嫌い	n=58	(%)
1. どちらでもない	39	(67)
2. 好き	8	(14)
3. まあまあ好き	5	(8)
嫌い	4	(7)
かなり嫌い	2	(3)
決めていない	2	(3)

表5の授業が好きか嫌いでは、「好き」「まあまあ好き」を合わせると22%、「どちらでもない」が67%と一番多く、「嫌い」と「かなり嫌い」を合わせると10%であり、嫌いな率はこちらが思うより少なかった。「どちらでもない」の中には「授業によって違う」という意見があり、科目（授業の仕方等）によって学生の受講態度が変化している様子が見える。

表6-1 好きな授業の理由（複数回答）

好きな理由	n=52	(%)
1. 自分の勉強になるから	9	(15)
2. 職につくのに必要だから	8	(14)
3. 楽しい授業だから	5	(8)
わかりやすい授業だから	2	(4)
勉強が好きだから	1	(2)
無回答	27	(52)

表6-1では、好きな授業の理由は、授業の楽しさとは別で「自分の勉強になるから」「職に就くのに必要だから」と答えた学生は17人で3割であった。教員の授業の仕方や内容に関係なく真面目に受けようとしている学生であると思われる。

表6-2 嫌いな授業の理由（複数回答）

嫌いな理由	n=45	(%)
1. 眠くなる・眠さをこらえるのがつらいから	10	(22)
2. 聞くだけの授業だから	6	(13)
3. わからないから・難しいから	6	(13)
自分に集中力がないから	5	(11)
覚えるのが苦手だから	3	(7)
わからない、難しい授業	3	(7)
つまらない、つかれる	1	(2)
ビデオ、教科書だけの授業	1	(2)
苦手な教科	1	(2)
黒板に書くことが多い授業	1	(2)
発表が苦手	1	(2)
座っていることがきつい	1	(2)
説明が長い	1	(2)
難しい授業	1	(2)
勉強自体が嫌い	1	(2)
無回答	9	(20)

表6-2を見ると、授業を受ける事が嫌いな理由は「眠くなるから、眠くなるのをこらえるのがつらいから」が一番多く16%であった。学生側も眠くなることを嫌なことととらえており、寝たくて寝ているわけではなく、眠たくなってしまうから眠さに負けて寝てしまっている現状が見える。

上位の「眠くなる」、「聞くだけの授業」、「わからない、難しい」等は教員側の授業改善の考慮すべき点である。「自分に集中力がない」や「覚えるのが苦手」については学生側の問題ではあるがこれも教員側が考慮し、アドバイスをを行う必要がある項目であると思われる。

表7 授業に対して自分で努力していること（複数回答）

努力していること	n=58	(%)
1. ノートをしっかりとる	24	(40)
2. 寝ないようにする	16	(28)
3. 私語をしない	8	(14)
聞き逃さない・集中する	7	(12)
何が大切か理解する	6	(10)
自分の意見を考えながら受ける	3	(5)
欠席しない	3	(5)
真面目に受ける	2	(3)
わからないところは質問したり調べる	2	(3)
遅刻しない	1	(2)
頭を空にする	1	(2)
発表する	1	(2)
寝ていても聞く	1	(2)
特になし	3	(3)
無回答	2	(3)

表7を見ると、40%の学生がノートをしっかりとるように努力しており、28%の学生が寝ないように努力している。ほとんどの学生が前向きに授業を受けようと何らかの努力はしていた。

表8 どんな授業を希望するか（複数回答）

希望する授業	n=58	(%)
1. 楽しい授業	33	(56)
2. わかりやすい授業	21	(36)
3. 勉強になる授業	5	(8)
眠くならない授業	3	(5)
体験談を聞きたい	2	(3)
特になし	2	(3)
学生の意見を問う授業	1	(2)
ビデオを使った授業	1	(2)
短い授業	1	(2)
テストに役立つ授業	1	(2)
無回答	9	(10)

表8をみると、学生の授業に対する希望は半数以上の56%が「楽しい授業」、36%が「わかりやすい授業」を望んでいた。楽しくわかりやすい授業をすることによって、学生を集中させ眠らせないで授業ができることを示唆している。他には「体験を聞きたい」、「生徒との対話のある授業」を臨んでおり、これらも教員が授業をするにあたって考慮すべき内容であろう。

2) アンケート②

「教科別の試験への取り組み予定時間と学習障害・促進因子の調査」

表9-1 目標点数と学習時間（1年生）

教科名	A	B	C	D	E	F	G	H	I
平均目標点数	68	76	63	71	78	71	71	69	63
平均学習予定時間	1.5	1.7	6.3	3.7	1.1	2.6	3.7	3.7	6.2
平均学習実施時間	0.9	1.1	4.4	2.7	0.5	2.3	2.1	2.9	4.1
n	27	18	28	28	27	27	28	28	27

表9-1をみると、1年生の平均目標点数は63点から78点で、平均学習予定時間は6.3時間～1.1時間であり教科によってばらつきがあった。平均学習実施時間は学習予定時間の約7割の4.4～0.5時間実施していた。平均目標点数の低い2教科（C、I）は6時間近くの長い時間勉強していた。「安易に点数が取れない」、「落ちるかもしれない」と思わせることは必要なようだ。

表9-2 目標点数と学習時間（2年生）N=46

教科名	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
平均目標点数	74	71	71	76	70	76	70	72	70
平均学習予定時間	1.8	2.5	2.6	2.3	1.9	1.4	2.5	2.5	2.2
平均学習実施時間	0.8	1.5	1.3	1.2	1.6	0.8	2.4	2.2	1.6
n	19	32	32	14	31	15	29	36	29

表9-2を見ると、2年生は教科間での目標点数の差は少なく平均目標点数は70点～76点、平均学習予定時間は2.6～1.4時間であった。平均学習実施時間は2.4～0.8時間であった。1年間学習してきて、1～2時間程勉強すれば70点ぐらいいは取れると感じているようだ。日頃から勉強しているからいいという可能性もあるが、もっと負荷をかけて、勉強させる必要があると感じた。

表10-1 学習の障害因子との関係（1年生）（複数回答）

教科名	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
授業中真剣でなかった	8	1	2	4	9	4	2	4	3	3.6
勉強のやる気がしない	2	3	1	1	5	1	5	3	1	2.4
授業の理解が出来ない	4	4	3	5	5	0	2	2	4	3.2
アルバイトで忙しい	3	1	2	5	1	5	4	5	3	3.2
家庭的な事情で忙しい	2	1	3	2	0	5	3	1	1	2
n（障害因子あり）	13	6	13	17	13	10	16	11	17	12
平均目標点数	68	76	63	71	78	71	71	69	63	70
平均学習予定時間	1.5	1.7	6.3	3.7	1.1	2.6	3.7	3.7	6.2	3.4
平均学習実施時間	0.9	1.1	4.4	2.7	0.5	2.3	2.1	2.9	4.1	2.3

表10-1では、授業中真剣であったかどうかは目標点数と関係なく、点数が取れそうでも取れそうでなくても授業中の態度には関係ないと思われる。教科によって授業中の態度が違い、どの教科でも真剣でないということではなく、やはり教員の力量が試されているのだと感じた。授業中真剣でなかった2教科は平均学習実施時間が1時間以下であり、授業中の態度はそのままその教科への取り組みにも反映されている可能性がある。

表10-2 学習の障害因子との関係（2年生）（複数回答）

教科名	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	平均
授業中真剣でなかった	5	5	5	4	6	3	4	7	4	4.7
勉強のやる気がしない	4	5	7	5	3	2	5	7	7	4.4
授業の理解が出来ない	0	4	0	3	1	0	1	2	4	1.5
アルバイトで忙しい	1	2	1	1	2	1	1	0	1	0.8
家庭的な事情で忙しい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
n（障害因子あり）	10	16	13	13	13	6	11	17	17	12.8
平均目標点数	74	71	71	76	70	76	70	72	70	72
平均学習予定時間	1.8	2.5	2.6	2.3	1.9	1.4	2.5	2.5	2.2	2.1
平均学習実施時間	0.8	1.5	1.3	1.2	1.6	0.8	2.4	2.2	1.6	1.4

表10-2では、2年生の学習の障害因子は教科による差はなく、「授業中真剣でなかった」や「勉強のやる気がしない」が多く、「アルバイト」や「家庭的な事情」での学習の障害因子は少なかった。

表11-1 学習の促進因子がある人数（1年生）

教科名	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
友人に援助してもらおう	24	14	25	25	24	21	23	25	27	23.1
授業者に質問する	3	1	7	7	4	6	7	6	5	5.1
なし	4	5	3	5	4	7	5	4	5	4.6
n	30	20	33	34	31	32	33	33	34	31.1

表11-1では、1年生の学習促進因子は教科間で差はさほどなかった。70%程が「友人に援助」してもらい、15%程の学生が「授業者に質問」していた。

表11-2 学習の促進因子がある人数（2年生）

教科名	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	平均
友人に援助してもらおう	14	28	27	13	30	16	24	28	32	23.5
授業者に質問する	0	5	2	1	2	0	1	4	2	1.8
なし	4	2	3	1	3	1	2	3	3	2.4
n	28	34	31	15	33	17	26	33	35	28

表11-2では、2年生も教科によって学習の促進因子に差はなく、80%程が「友人に援助してもらい」、6%が「授業者に質問」している。

表12-1と2をみると、1年生はアルバイトの有無と授業態度は関連が見られないのに対し、2年生はアルバイトをしている学生に授業への取り組む姿勢に低下傾向が見られた。

表12-1 アルバイトの有無と授業への取り組み姿勢（1年生）

	授業中真剣でなかった	真剣だった	無回答	n (%)
アルバイト有	3	7	0	10(26.3)
アルバイト無	8	12	0	20(52.6)
無回答	0	5	3	8(21.1)
n (%)	11(28.9)	24(63.2)	3(7.9)	38(100.0)

表12-2 アルバイトの有無と授業への取り組み姿勢（2年生）

	授業中真剣でなかった	真剣だった	無回答	n (%)
アルバイト有	10*	7	0	17(37.0)
アルバイト無	5	12	2	19(41.3)
無回答	0	1	9	10(21.7)
n (%)	15(32.6)	20(43.5)	11(23.9)	46(100.0)

1年生と2年生の間に授業に対する真剣さの差は20%あったが有意差はなかった。

表13-1 アルバイトの有無と予測の難しさ（1年生）

	試験の予測が難しい	難しくない	無回答	n (%)
アルバイト有	9	1	0	10(26.3)
アルバイト無	12	8	0	20(52.6)
無回答	2	3	3	8(21.1)
n (%)	23(60.5)	12(31.6)	3(7.9)	38(100.0)

表13-1では、1年生でアルバイトしている学生に試験の予測が難しいと答える学生が有意に多いとは言えなかった。1年生は試験への不安があってもアルバイトをしている状況であった。

表13-2 アルバイトの有無と予測の難しさ（2年生）

	試験の予測が難しい	難しくない	無回答	n (%)
アルバイト有	8	9*	0	17(37.0)
アルバイト無	12	7	0	19(41.3)
無回答	2	1	7	10(21.7)
n (%)	22(47.8)	17(37.0)	7(15.2)	46(100.0)

表13-2で、2年生でアルバイトしている学生は、試験の予測を難しくないと捉える学生が多く、2年生になると単位をとることに不安のある学生はアルバイトを控えている様子がうかがえる。

表14-1 アルバイトの有無と障害因子（1年生）

	アルバイトが障害因子	障害因子でない	無回答	n (%)
アルバイト有	7	3	0	10(26.3)
アルバイト無	3	17	0	20(52.6)
無回答	0	5	3	8(21.1)
n (%)	10(26.3)	25(65.8)	3(7.9)	38(100.0)

表14-1をみると、1年生は65%がアルバイトは学習の障害因子とは考えていないが、実際アルバイトをしている学生はアルバイトが学習の障害因子になっていると答

えている。1年生は平均学習時間が長く、アルバイトが障害因子になっていると思われる。

表14-2 アルバイトの有無と障害因子（2年生）

	アルバイトが障害因子	障害因子でない	無回答	n (%)
アルバイト有	2	15	0	17(36.9)
アルバイト無	0	19	0	19(41.3)
無回答	0	3	7	10(21.8)
n (%)	2(4.3)	37(80.4)	7(15.2)	46(100.0)

表14-2をみると、80%がアルバイトは学習の障害因子ではないと答えており、1年生と違いアルバイトをしている学生であってもアルバイトを学習の障害因子とは考えていない。平均学習時間が1年生より少ない1教科1.4時間であることも関係があると思われる。

表15 学習への障害因子の有無

	障害因子無	障害因子有	無回答	n (%)
1年生	14	21	3	38(45.2)
2年生	9	30	7	46(54.8)
n (%)	23(27.4)	51(60.7)	10(11.9)	84(100.0)
n (%)	2(4.3)	37(80.4)	7(15.2)	46(100.0)

表15をみると、学習への障害因子の有無は1年生と2年生に有意な差はなかった。

表16 促進因子の学年比較（複数回答）N=84

	友人に援助してもらう	授業者に質問	なし
1年生	32	11	8
2年生	34	13	7
n (%)	66(79)	24(29)	15(18)

表16では、学習の促進因子の有無は1年生も2年生もかわりはなかった。他にも各教科について実際の点数と障害因子、促進因子、授業中の態度、学習時間を比較したが関係性は見られなかった。

表17-1 A教科の実際の点数と学習の障害因子の数

障害因子の数 A教科の点数	0	1	2	3	4	5	6	無回答	n (%)
60点以下	2	3	3	4	0	1	0	0	13(34)
その他	2	3	3	12	1	0	1	0	22(58)
無回答	0	0	0	0	0	0	0	3	3(8)
n	4	6	6	16	1	1	1	3	38(100)

表17-1をみると、実際に取った点数と学習の障害因子の数は関係なかった。

表17-2 A 教科の実際の点数と学習の促進因子の数

A教科の点数 \ 促進因子の数	0	1	2	4	5	無回答	n (%)
60点以下	1	0	13	0	1	1	16(42)
その他	2	5	10	1	1	0	19(50)
無回答	0	0	0	0	0	3	3(8)
n	3	5	23	1	2	4	38(100)

表17-2のように、A教科の点数と学習の促進因子の数は関係なかった。

表17-3 A 教科の実際の点数とアルバイトの有無

A教科の点数	アルバイト有	アルバイト無・他	n (%)
60点以下	4	9	13(34.2)
その他	6	19	25(65.8)
n (%)	10(26.3)	28(73.7)	38(100.0)

表17-3のように、A教科の実際の点数とアルバイトの有無は関係していなかった。他の教科でも同じ結果であった。

表18 就職模試3回の平均点と教科の60点以下の数(2年生)

60点以下の教科数 \ 就職模試の平均点数	4教科未満	4教科以上	n (%)
60点以上	25*	0	25(54.3)
60点未満	10	11	21(45.7)

表18では、1年生の1回の就職模試の点数と教科の点数の間に有意差は見られなかったが2年生の就職模試の結果の3回分の平均点と教科の点数を比較すると有意差があった。一般教養問題の点数がとれない学生は大学での教科の点数も取れない傾向にある。これはその学生のもともとの能力的なもの(記憶力や理解力)や点数を取るための勉強の仕方に原因があると思われる。なかなか点数が取れない学生には、その学生の勉強の仕方を知り勉強の仕方を指導することも必要であると思われた。また、就職模試の点数と学習の促進因子と阻害因子の影響を見てみたが関係性は見られなかった。

有意義の検定には χ^2 検定($p < 0.05$)を使用した。

V まとめ

学生の授業中の態度を見ていて、学習に対してやる気が少なく、あまりまじめに授業を受けたいとは考えていないという印象を持っていた。しかし授業に対してのアンケートをとってみると9割の学生がきちんと目標持っ

て進学して来ており、授業を受けるに当たっても自分なりに努力をしようとしていることがわかった。きちんと受けていない学生がいる時は学生側だけではなく教員が授業の仕方について見直す必要があり、学生が求めている楽しい授業、わかりやすい授業、眠くない授業への工夫をしていく必要があると感じた。

試験に対する取り組みについてみると、1年生は点数をとるのが難しいと思っている教科については長めに学習をしている。2年生は、点数をとるのが難しい教科でも1時間ほどの学習しかしていなかった。1年生は7割、2年生は9割が友人に援助してもらっている。このことを証明するかのように試験前にはテストのポイントをつかんでいる学生のノートのコピーが学生の間を回っている。

試験の目標点数と実際の学習時間、阻害因子、促進因子は多少関係性があるがそれらと実際に取った点数との間には関係性はなかった。実際に点数との関係があったのは就職模試の数回の平均点であった。この事は、学生に60点以下の点数を多く取らせないためには、就職模試で低い点数の学生にとっても理解しやすい授業への工夫とその学生がどのような学習の仕方をしているのかの把握、またその改善のための指導が必要であると思われた。今後は学生の学習の仕方の改善についても分析していきたいとおもう。

参考文献

濱名篤 他：学習支援で学生を変える
看護教育2009年7月号Vol.50 No7